

事業報告概要書（公表版）						公表様式
1 基本情報						
施設名又はグループ名			指定管理者名及び団体概要			
日比谷公園大音楽堂			（指定管理者名）公益財団法人 東京南部パークスグループ （団体の概要）公益財団法人東京都公園協会、大星ビル管理株式会社、及び株式会社共立が共同事業体として管理する。			
指定期間						
R5.4.1 ～ R6.9.30(1.5年間)						
2 施設名						
日比谷公園大音楽堂						
3 管理運営の概要						
音楽文化の発信拠点として100周年を迎え、レガシーを支える中心的な役割を果たす。 ①組織体制と役割分担、職員の技術・能力向上への取組。 ②質の高いサービスの提供及び利用者要望の把握と反映。 ③地域コミュニティとの連携による施設の魅力や地域の価値の向上。 ④施設の魅力向上と利用促進を図るための自主事業等の実施、東京2020大会レガシーの継承。 ⑤適切な維持管理と補修・改良に関する要望への取り組み。 ⑥公園の緑の特性を引き出す空間づくり。						
4 管理状況（維持管理）						
保守点検や巡回点検、利便性の向上を図った計画的な施設補修により安全性のさらなる向上と施設の長寿命化につながる取組を実施。 ①老朽化した設備管理を重点とした維持管理で蓄積した維持管理履歴を活用し各設備機器の点検を適切に実施。 ②コンプライアンスの徹底のもと各種法令の遵守と法定点検実施による作業の安全や施設の安全を確保。 ③日比谷公園との調和を意識した維持管理で景観的特性を活かした施設を提供。 ④日比谷公園大音楽堂の未来に向けた再整備に関する様々なデータやノウハウを提供。 ⑤工事発注内容の確認、現場確認等工事監督、工事完了時の完了検査等で維持管理の品質を保持。						
5 利用者アンケート結果						
実施方法：公園内で調査票を配布・回収／QRコード掲示によるWEBアンケート						
施設名		照合 満足度	利用者 サービス	施設の 清潔さ	安全 ・安心	職員の 対応
日比谷公園大音楽堂		4.8	4.5	4.5	4.6	5.0
6 入園者数の状況（単位：人）						
施設名		当該年度		分析		
日比谷公園大音楽堂		259,011		音楽会の利用拡大により入場者数が増加した。（200,000人→259,011人）		
合計		259,011				

日比谷公園 大音楽堂

所在地：千代田区、千代田区／敷地面積：0.57ha

多くのアーティストたちが様々な世界観をつくりあげ披露する
聖地・殿堂「日比谷野音」



「日比谷野音100周年記念事業」開催



4月～11月の長期にわたる大規模な記念事業イベントを開催

「日比谷野音100周年記念事業」は、「人がいる。空があり、音が鳴る。そして次の100年へ」のキャッチコピーを掲げ、小池都知事も臨席された4月15日(土)のオープニングセレモニーを皮切りに、11月26日(日)のオープンデーまでの7ヶ月にわたり、「ライブ/イベント事業」・「アーカイブ事業」・「広報告知(PR)事業」を実施。来場者数はのべ約15万人に達した。

具体的な事業内容としては、野音に縁のある様々な世代やジャンルの一流アーティストによる37本の記念コンサートを繰り広げた他、緑と水の市民カレッジ3F及び1Fタリーズコーヒー店や日比谷公園陳列場をはじめ帝国ホテルなどでの記念展示や日比谷図書文化館、東京ミッドタウン日比谷での100周年シンポジウムを行う等周辺施設、近隣企業とも連携し、100周年事業を広く展開した。また、思い出エピソードの募集や100年史の制作、保管資料の目録作成等もアーカイブ事業として実施。オフィシャルサイトやSNS、看板や事業紹介パンフレットなどを通して広く100周年記念事業を周知した。その他テレビ、ラジオ、新聞、雑誌、WEB等で多数取り上げられたことにより、**日比谷野音100年の歴史と日本の音楽文化の発展に貢献してきた役割、存在意義を再認識していただくことができた。**



オープニングセレモニー



クロージングYAON FES.



事業紹介パンフレット

「日比谷野音オープンデー2023」開催



100周年クロージングイベントとして陳列場と共に2日間開催

「日比谷野音100周年記念事業」の一環として、11月25日(土)26日(日)の2日間にわたり開催した。第一会場の野音では、ステージ上に野音縁のアーティストの楽器を本番のライブを再現する形で展示し、来場者にアーティスト気分を味わってもらったり、楽屋では100周年記念コンサート出演アーティストの直筆サインなどを展示した。第二会場の陳列場では、野音100年史の年表、100周年記念コンサートのステージ写真や普段見ることのできないアーティストのステージ衣装などを展示したことで、**事業計画の2,000人を超える約3,800人の来場者にて大盛況にて開催**することができた。今般のオープンデーを通して、**野音の音楽施設としての歴史と果たしてきた役割、価値を広くPRしたとともに、日比谷公園を含めて施設の魅力向上に寄与することができた。**



ステージ楽器再現シーン



陳列場ステージ衣装展示

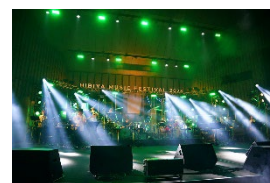
「日比谷音楽祭2023」開催



4年ぶりに規制のない「フリーでボーダレスな音楽祭」開催

「日比谷音楽祭2023」は、新型コロナウイルスの感染症法上5類の位置付けになったことにより、規制のない中で「日比谷野音100周年記念事業」と連携して有観客＋オンライン生配信の2本立てにて開催することができた。しかしながら、6月2日(金)～4日(日)の3日間の予定が、台風2号の影響により一部のプログラムを中止せざるを得なかったことが残念ではあったが、**のべ約15万人の来場者にて大盛況にて開催することができた**。メイン会場の野音では、2日間で3回のステージを行い、石川さゆり、木村カエラ、加藤登紀子、桜井和寿(ミスチル)、サプライズとしてB'zが登場するなど野音100周年の節目に相応しい一流のアーティストによるパフォーマンスを繰り広げた。

また、小音楽堂や第二花壇、草地広場、日比谷図書文化館そして東京ミッドタウン日比谷においてもステージやトークショー、ワークショップ等様々なイベントを実施し、老若男女問わず、多くの方々に参加いただくことができた。これらの模様はU-NEXTを通じてオンラインにて、日本各地をはじめ全世界に配信され、**3日間で視聴者数27万人、総再生回数57万回**という過去最多の視聴であった。翌日の情報番組等TVや新聞、WEBなどでも多数取り上げられ、日比谷音楽祭はもとより**日比谷公園と大音楽堂の魅力の向上に繋げる**ことができた。



広報・PR等の取組み



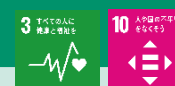
100周年の大音楽堂の魅力やレガシーを発信

テレビ東京「新美の巨人たち」では、今年100周年を迎えた野音の歴史・特長をインタビューを交えて紹介。フジTV「newsイット!」TBS「news23」においても野音100周年が特集された。「読売新聞・朝日新聞・日本経済新聞」では様々なエピソードをアーティスト本人のコメントとともに掲載。その他「女性セブン」「東京人」においても特集記事が組まれた。また「Stage Sound Journal表紙」「都バス機関誌」などでも取り上げられる等**メディアを通して施設のPRに繋げる**ことができた。



新美の巨人たち1シーン

適切な管理の履行及び都からの要請への協力・対応



音楽会利用可能日の拡大試行実施継続延長と施設使用延長への対応

昨年度、試行実施としてスタートし今年度も継続延長された冬季期間（11月から3月）における音楽会の利用につき、当期間の土日祝祭日の予約がほぼ埋まっている中で適切な管理運営、利用者対応を行った。また、当初令和6年10月より再整備のため休館を予定していた野音が、P-PFI公募に対する事業者応募がなかったことから、令和6年10月以降も引き続き使用が延長されることとなった。これに伴い**令和6年11月から令和7年2月分までの使用申し込み抽選の受付を急遽行うなどの対応につき、東京都と連携の上、HPでの周知並びに利用者対応等適宜適切に実施した**。



コンサート利用風景

収支状況

3 収支(単位:千円)				
	令和5年度	令和4年度	令和3年度	公園別支出額
項目	金額	金額	金額	日比谷公園大音楽堂：71,607
収入 計	73,022			
内 指定管理料	73,022			
内 利用料金	0			
支出 計	71,607			
収支差	1,415	0	0	